



街路樹

学力向上は安心できる学級づくりから

9月

特別支援教育～「発達障がい教育講座」より～

蒔田晋治さんの詩『教室はまちがうところだ』の中に、次のような一節が出てきます。「まちがうことをおそれちゃいけない まちがったものをわらっちゃいけない」そして、こう続きます。「まちがった意見を まちがった答えを ああじゃないかこうじゃないかと みんなで出しあい 言いあうなかでだ ほんとのものを見つけていくのだ そうしてみんなで伸びていくのだ」

自分の学級はどうでしょうか？ 子どもたちが、自由に意見を言い合える雰囲気が築かれているでしょうか？ 子どもが表現したのに対して、周りが冷やかしたり、笑ったり、揚げ足を取ったりしたときには、教師は毅然と指導しなければいけません。一度でも許してしまうと、教師への信頼が崩れるだけでなく、やがて子どもは表現をしなくなります。「言ったら笑われる」という思いを払拭するのは至難の業です。「ならぬものはならぬ」という信念のもと毅然とした指導を行うことこそが、子どもにとって安心した環境を提供することになるのです。

教師の子どもへの接し方でも子どもは変わります。認める、褒めることにより、教師への信頼関係が生まれます。「先生は、ぼくを気にしてくれている」「私は、先生に見守られている」「ぼくは、先生に信頼されている」など、友だちから認められ受け入れられるだけでなく、教師からの愛情をいかに感じられるかということも、子どもたちにとってはとても重要なことです。教師に対する個々の信頼感が、学級集団づくりのもとになり、子どもの居場所づくりになるからです。

学校での大部分は授業時間です。その時間が「認められる」「ほめられる」「間違っても大丈夫」な時間であれば、きっと子どもは、もっと生き生きとしてくれるはずです。学級が大好きになるはずです。そして、仲間と共に勉強したいと思うようになるはずです。

「学び合う親和的な学級集団」になれば、学級全体として学習意欲が向上し、学力向上に結びついてくるのは明らかです。冒頭の詩にあるように「みんなで伸びていく」のです。

『授業をつくる16の視点』（福島県教育センター）より

今年の8月5日に行われた「発達障がい教育講座」において、明星大学の小貫悟教授よりとても納得できるたくさんのお話を伺うことができました。今回は、その中でも特に多くの先生方に聞いていただきたかったお話を紹介したいと思います。

発達障がいに共通する特徴は、「状況依存性」である。LDは「学習の仕方」に、ADHDは「刺激量」に、自閉症傾向は「場の構造化（分かりやすさ）」に左右されやすい。つまり、このような子どもたちが見せる不適応行動の裏には、状況面の問題もあるのではないかと。

教育におけるユニバーサルデザイン化は、叱責を受ける率の高い発達障がい系の子に対して、叱責を減らすための環境を作っていくことにある。することが当たり前なことであっても、ルール化していくことが重要である。

誰にでもわかりやすい授業をつくるということは、難易度を下げるということではない。身に付けさせたい内容を絞り込み（焦点化）、有効な展開方法（展開の構造化）を考えるということである。その展開の方法の一つとして、視覚的にも訴える教材の工夫（視覚化）、児童生徒相互の考えを交流し合える場づくり（共有化）がある。誰にでもわかりやすい授業を目指すこと自体が「授業のユニバーサルデザイン化」である。

そのような授業を構想する際、はじめに授業の「山場」を決め、次に「山場」へいかに児童生徒を導くかを考える方法がある。

ただ、ユニバーサルデザイン化された授業を展開すればよいのではなく、やはり個別への配慮や補充指導を加える必要がある。

これまで、不適応行動を示す児童生徒をどうにかしてあげたいという個別対応の視点で考えていたような気がします。しかし、今回の講座を経て、安心できる環境やわかりやすい授業をつくっていくことが大切なのだと思えて感じさせられました。



研修講座のお知らせ & 研修感想紹介



○不登校対策講座

日時：11月13日(木)14:00～16:20

会場：いわき市文化センター

講師：柳生 和男(文教大学教授)

内容：「不登校児童生徒の理解とその対応」

対象者：初任者、経験者研修Ⅱ(悉皆) 希望者(教頭、教諭、養護教諭、常勤講師)

○「授業力向上講座Ⅲ(応用)小学校」

今年は全教科とも小学校を会場に行います。筑波大学附属小学校教諭による出前授業や演習などを通して、思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫について学ぶことができます。



※「コミュニケーション能力向上講座」感想紹介

「実際にアニメーションを体験し、読書の楽しさ、アニメーションの有効性を学ぶことができた。」
「国語の読み深める活動や特別支援を要する児童への手立てとしても有効であると感じた。」

